「宿泊税の考え方（案）」対する意見の概要と市の考え方

	項目	意見の概要	市の考え方
1	税制度（税率）に関するもの	①税額について 千葉市として定額 150 円、千葉県分と合わせて 1 人 1 泊 300 円は妥当と考える。	宿泊税の税額についてご理解いただきありがとうございます。 本市観光振興の取組みを着実に進めるため、引き続き市民や宿泊事業者へ制度の理解が得られるよう努めるとともに、宿泊税の導入の準備を進めてまいります。
2	税制度（課税免除）に関するもの	導入後の検討事項でも構わないが、課税免除者に障がい者を加える（介助者 1 名まで含む）ことも検討してはどうか。観光のバリアフリー化を進め、障がい者に優しい千葉市をアピールすることも重要と考える。千葉市で宿泊する人として、単なる観光目的というよりは、ビジネス、スポーツ観戦、イベント参加などが相当数を占めると思われ、障がいを持つ人が積極的に外へ出る機会を創出することも行政の重要な役割である。 また、連泊に対する減免措置について、国内では導入しているところはないようだが、海外では長期滞在者への宿泊税を免除する国もある。今後の宿泊実態調査に基づき、導入を検討することも一考である。海外旅行者は長期で滞在することが多く、宿泊税で稼ぐより、市内で飲食や買い物でお金を使ってもらう方が結果的に市の活性化につながる。	宿泊税の課税免除を行う場合には、課税を不適当とする公益上の事由が必要であり、公益性が明確な対象に限定して行う必要があります。なお、一月以上の期間を単位とした宿泊については課税対象外としています。いただいたご意見については、今後の制度設計の参考にさせていただきます。
3	宿泊税の使途に関するもの	②使途について 具体的な使途は今後検討するようであるが、来訪者が迷わず時間通りに目的地に到着できるよう多言語対応の案内板の設置は必要である。前述のバリアフリー化は勿論であるが、千葉市を特徴づける先進的なピクトグラムの採用を検討してはどうか。主要箇所にタッチパネルによる対応・表示、音声ガイダンスなどを設置する。イベント時のシャトルバスの運行支援、市内の飲食店、ポートタワー、モノレール、動物公園等の割引クーポンの発行支援などが考えられる。 千葉県や千葉市では複数の姉妹・交流都市と提携が結ばれているが、中国のように国との関係が冷え込んでいる中で、地域間の継続的な直接交流は非常に重要である（日本に来たいと思っている中国人は相当いるだろう）。姉妹都市との教育・文化交流、観光 PR への支援活動が考えられる。また、今後のマリンスタジアム改修も見据え、国際会議、見本市、イベント、コンサート（フェス）、MLB 開幕戦、国際試合（サッカー、バスケ、バレー、ボクシング、アーバンスポーツ、E スポーツ、ケイリン、卓球等）などの誘致活動の支援が考えられる。	市では、本市観光の課題解決に向けた観光振興施策の財源として宿泊税を活用したいと考えています。 具体的な使途については、今後策定予定の「千葉市観光振興ビジョン」における施策の方向性も踏まえながら、宿泊税導入前までに具体的な事業を立案していきます。なお、立案した事業については、市議会における予算案の議決をもって決定されます。 また、宿泊税の使途や効果の検証を行うとともに、導入後 5 年を目途に、市内の観光関係事業者等のご意見も踏まえ、制度の見直しを行う予定です。 いただいたご意見については、今後の観光振興に向けて、参考とさせていただきます。

		宿泊者へのアンケートを継続的に行い、宿泊の実態、満足度（不満）などの調査に基づき、PDCA を回して改善していく必要がある。	
4	その他	③千葉市の魅力について 千葉市は災害大国日本の中で、地震、津波、豪雨、山林火災などの災害が極めて少ない地域である。最近では「クマのいない県」としても注目されている。首都直下地震等により首都機能が麻痺した場合には、近隣としてその機能をバックアップする役割を持たせることも十分に考えられる。また、大規模災害時の一時避難場所として居住地を提供することも意義がある。そのためにも、いざというときに役割を担えるよう 2011 年の経験も踏まえ、湾岸埋立地のライフラインを含む耐震化及び液状化対策は急務である。 成田・羽田空港へのアクセスのよさ、TDL や東京への近さ、湾岸エリアのプロスポーツリーグの観戦、房総エリアの観光・低山ハイクなど、千葉市を拠点に長期滞在することが期待される。資料にある宿泊者年間 370 万人のうち、海外旅行者がどの程度を占めるのか不明であるが、国内の少子高齢化・人口減少を考えれば日本人の宿泊者の増加はあまり期待できない。海外旅行者を呼び込む工夫が必要である。前述の姉妹都市へのアプローチは勿論であるが、千葉港は国内有数の貿易港であり、物流だけでなく貿易相手国への観光（人流）に関する働きかけも積極的に行ってほしい。一方、千葉港は残念ながら大型客船の入港ができない。対岸の東京や神奈川側に海外からのクルーズ船が入港している状況である。大型客船の受け入れのための喫水の確保、施設整備等についてハードルは高いと察するが、検討する価値はあると考える。100 年構想の柱になるとも考えられる。 千葉市の魅力発信が十分にされてきたか。まだ継続中ですが、開府 900 年事業の振り返りは是非行っていただきたい。富士山ビューポイントの開拓、幕張新都心、モノレール、港地区等の映画・ドラマの撮影場所誘致、体験型観光の整備など千葉の特徴を生かした人を呼び込む施策を実施するとともに、SNS も活用した積極的な発信が望まれる。外国人は歩くのが大好きである。ビューポイント、史跡、街並みなどを結んだロングトレイルを県内自治体と協力して整備することも検討してほしい。	現在、本市観光の課題や観光の潮流の変化を踏まえ、本市の強みを最大限に活かした観光振興を展開するため、「千葉市観光振興ビジョン」の策定を進めており、いただいたご意見については、今後の観光振興に向けて、参考とさせていただきます。

5	宿泊税の使途に関するもの	千葉市の宿泊税について、観光振興のための安定的かつ継続的な財源として活用することに賛同するとともに、その一部を、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して千葉市を訪れ、滞在し、観光を楽しむことができる受入環境の整備に活用することを提案します。 *1．宿泊施設のユニバーサル化への助成* 高齢者や障がいのある方にとって、旅行を諦める理由の一つに、「安心して泊まれる宿泊施設を見つけにくい」という課題があります。特にトイレや浴室は、段差や手すりの位置、便座や浴槽の高さ、床の滑りやすさなどが、宿泊時の大きな不安につながります。 そこで、宿泊税を活用し、市内の宿泊施設が行う次のような整備を対象とした助成制度を設けることを提案します。 -浴室入口等の段差解消　-手すりの設置 -車椅子でも利用しやすい浴室・洗面設備への改修 -シャワーチェア等の福祉用具・備品の導入　-客室やトイレ等のバリアフリー化 -館内案内や客室設備等への点字・触知案内の設置 -エレベーターや非常時を含む館内の音声案内設備の整備 -大きな文字や見やすい配色を用いた案内表示の整備 大規模な改修だけでなく、小規模な改修や福祉用具・備品の購入も助成対象とすることが重要だと考えます。 また、整備した設備について、「車椅子でどこまで入れるのか」「どのような福祉用具を利用できるのか」「点字や音声による案内があるか」など、宿泊者が予約前に具体的に確認できる情報を、市が発信する仕組みも必要だと考えます。 *2．安心して休憩・ケアができる「ユニバーサル休憩ステーション」の整備* 高齢者や障がいのある方が外出や旅行をするとき、「疲れたときに安心して休める場所があるか」「必要なケアを人目を気にせず行える場所があるか」「電動車椅子や医療機器等の電源を確保できるか」といったことが、外出先を選ぶうえで重要になります。 そこで、ホテル、商業施設、観光施設、ドラッグストア、文化施設など、すでに地域にある施設やスペースを活用し、次のような、それぞれの施設が「できること」を提供するユニバーサル休憩ステーションの仕組みを提案します。 -安心して座って休める　-電源を利用できる	宿泊税の導入について、ご理解いただきありがとうございます。 市では、本市観光の課題解決に向けた観光振興施策の財源として宿泊税を活用したいと考えています。 具体的な使途については、今後策定予定の「千葉市観光振興ビジョン」における施策の方向性も踏まえながら、宿泊税導入前までに具体的な事業を立案していきます。ご提案いただいたユニバーサルツーリズムの推進についても、本ビジョンの取組みに位置付けております。なお、立案した事業については、市議会における予算案の議決をもって決定されます。 本市観光振興の取組みを着実に進めるため、引き続き市民や宿泊事業者へ制度の理解が得られるよう努めるとともに、宿泊税の導入の準備を進めてまいります。

		-車椅子使用者対応トイレ等を利用できる -本人、家族、介助者等が、必要なケアを人目を気にせず行える これは、新たな施設の建設や医療従事者の常駐を前提とするものではありません。既存施設や企業が現在持っている場所・設備・サービスを活かし、協力可能な範囲で参加してもらい、市が協力施設を登録・見える化して、観光客や市民が利用できるネットワークを構築するものです。まずはエリアや期間を限定したモデル事業として実施し、利用状況やニーズ、企業側の課題等を検証することを提案します。 *3．ユニバーサルな観光情報の整備・発信* 「バリアフリー対応」と表示されていても、障がいの状態や必要な支援によって、実際に利用できるかどうかは異なります。 そこで、宿泊施設、観光施設、商業施設、飲食店、文化施設、休憩場所等について、次のような具体的な情報を収集し、旅行者が事前に確認できる「千葉市ユニバーサル観光情報」として発信することを提案します。 -段差や入口の状況 -車椅子使用者対応トイレ、オストメイト対応設備、ユニバーサルシート（大人用介助ベッド）等の設置状況 -休憩場所の有無　-利用できる電源の有無 -貸出可能な福祉用具　-ケアに利用できるスペース -利用にあたって相談できる窓口　-点字・触知案内の有無 -館内やエレベーター等における音声案内の有無 -音声読み上げソフトに対応したウェブサイト・アプリ・観光案内サービス -視覚障がいのある方への誘導や案内に対応できるスタッフの有無 また、情報発信にあたっては、文字や画像だけに頼るのではなく、音声読み上げソフトに対応したウェブサイトの整備、音声による施設案内、点字・触知案内、見やすい文字や配色の採用など、視覚障がいのある方も必要な情報を得られる方法を取り入れることが重要だと考えます。 *4．観光・宿泊事業者等へのユニバーサルツーリズム研修の充実*	

		設備や情報が整備されていても、現場で働くスタッフが、高齢者や障がいのある方への対応やコミュニケーションについて学ぶ機会が少ない場合、利用者が安心して相談したり、施設を利用したりすることが難しくなることがあります。 そこで、宿泊税を活用し、宿泊施設、観光施設、飲食店、商業施設、交通事業者等のスタッフを対象とした、ユニバーサルツーリズムに関する研修の実施や、受講費用への助成を行うことを提案します。研修には、次のような実際の利用場面を想定した内容を取り入れることが重要だと考えます。 -障がいの特性や必要な配慮に関する基礎知識 -車椅子使用者や視覚・聴覚に障がいのある方への案内方法 -高齢者や障がいのある方とのコミュニケーション -施設の設備や貸出可能な福祉用具を適切に案内する方法 -介助を必要とする方への声のかけ方や、本人の意思・希望の確認 -緊急時や災害時の避難誘導 また、研修の企画や講師には、高齢者や障がいのある当事者、家族、介助者、観光・福祉関係者等にも参加してもらい、現場で感じている困り事や必要な配慮を直接伝えられる仕組みとすることを提案します。 これは、一律の対応方法を覚えるだけではなく、利用者本人に必要な支援や希望を確認し、それぞれの施設が可能な範囲で柔軟に対応できる人材を育てることが大切だと考えているからです。 *おわりに* 宿泊税を単に観光客を呼び込むためだけに使うのではなく、設備の整備、具体的な情報の発信、現場スタッフの理解と対応がそろうことで、「千葉市なら安心して出かけられる、泊まれる、楽しめる」と感じてもらえる環境づくりへの投資として活用していただきたいと考えます。 観光客のために整備された休憩場所、バリアフリー設備、分かりやすい情報は、高齢者や障がいのある方だけでなく、子育て世代や一時的に移動に困難を抱える方など、千葉市で暮らす多くの市民にとっても役立つものになります。	

		まずは既存の地域資源を活用し、行政、企業、観光・福祉関係者、当事者等が、それぞれの「できること」を持ち寄る小規模なモデル事業から始め、その効果を検証しながら、千葉市全体へ広げていくことを希望します。 「観光客にやさしいまちは、市民にもやさしいまちになる」 宿泊税を活用し、千葉市が、誰もが安心して訪れ、滞在し、楽しむことのできるユニバーサルツーリズムのモデル都市となることを期待します。	